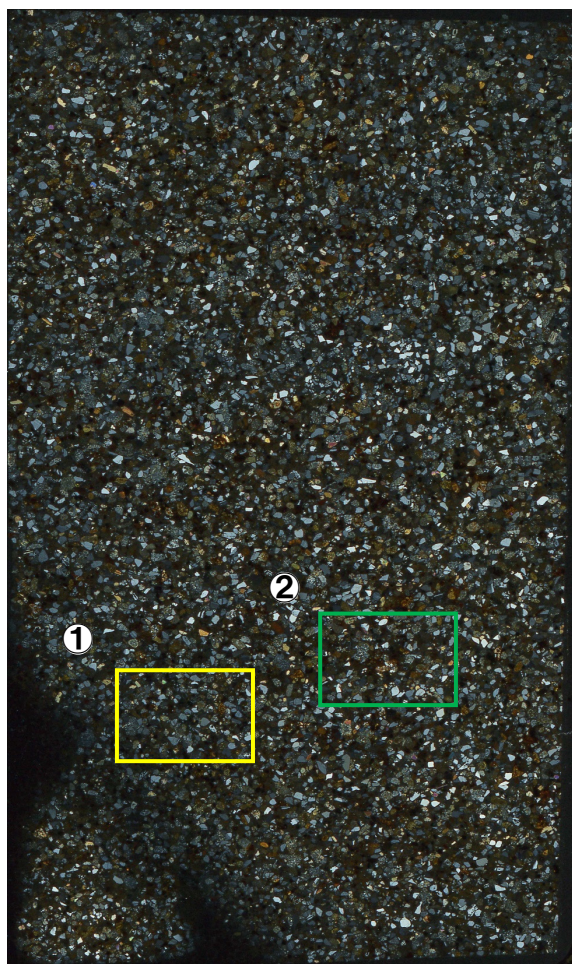


## 2.2.2 地層区分の妥当性

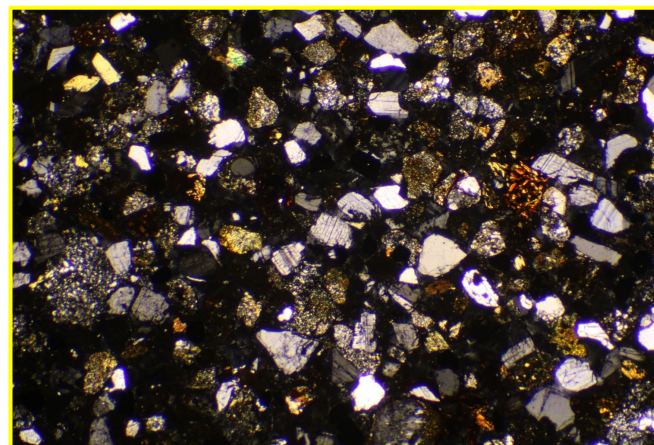
### ①薄片観察-SKB-TW-3-4(2/2)-



クロスニコル

10mm

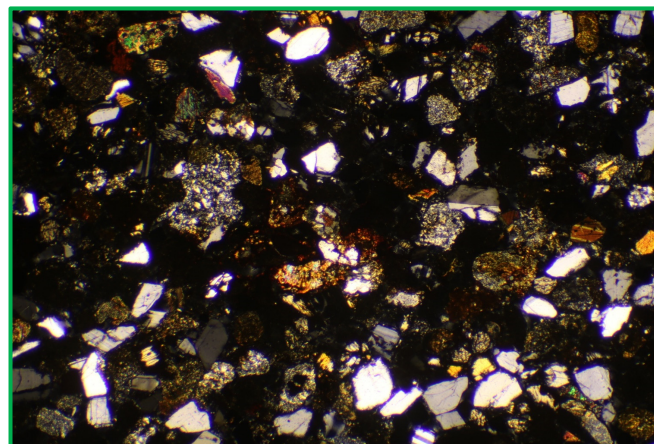
&lt;拡大写真①&gt;



クロスニコル

1mm

&lt;拡大写真②&gt;



クロスニコル

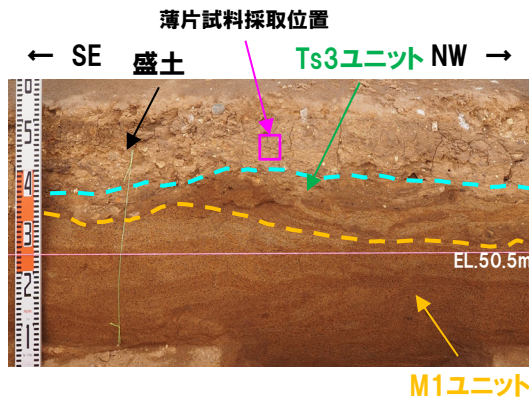
1mm

## 2.2.2 地層区分の妥当性

## ①薄片観察-SKB-TW-2(1/2)-

## 【SKB-TW-2(盛土)】

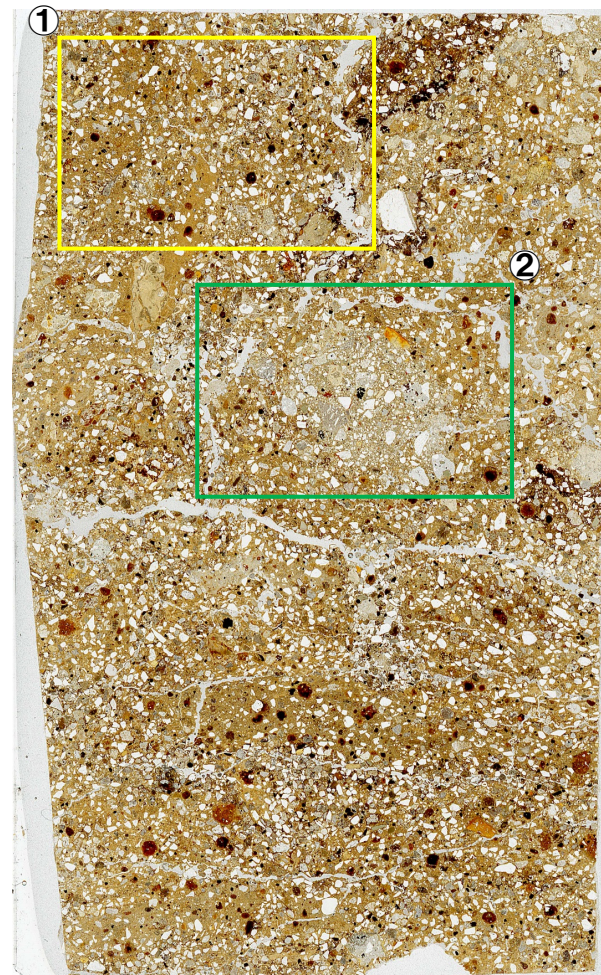
- 黄褐色を呈する粘土鉱物が薄片試料全体に多く認められるが、局所的に卓越して多い箇所(拡大写真①)が認められる。
- 水平方向に連続する空隙が数条認められ、薄片試料内を横断し、層相観察及びはぎとり試料観察において認められる特徴と調和的である。
- 砂粒径の碎屑物の量及び粒径の異なる箇所が認められ、粒子の形状及び粒径等が変化に富み、不均質な性状を示す(拡大写真②)。



開削調査箇所(南側)南側壁面の背後法面  
薄片試料採取位置

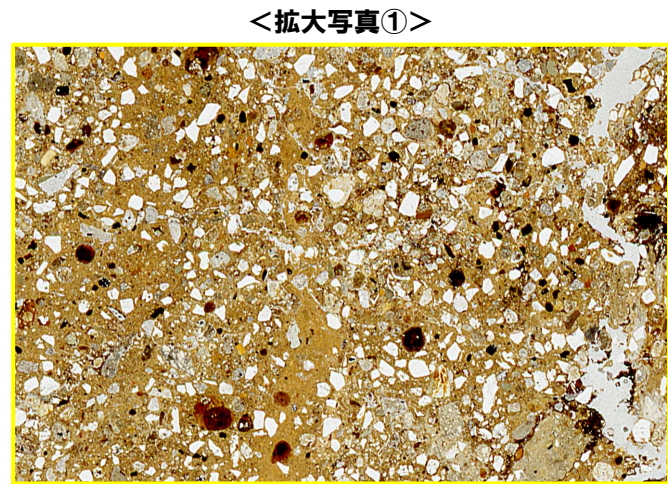


薄片試料写真(作成前)



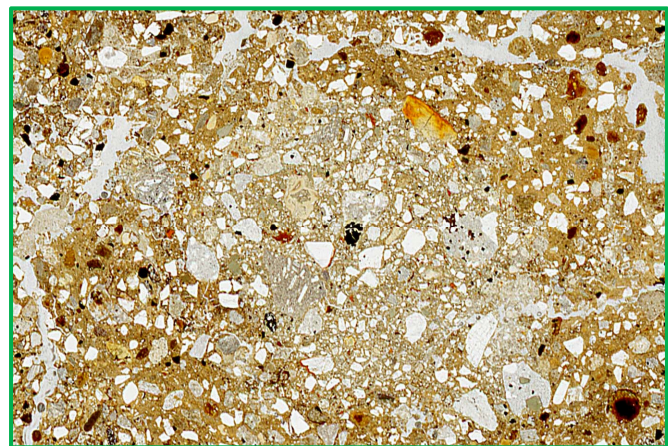
オープンニコル

10mm



オープンニコル

2mm

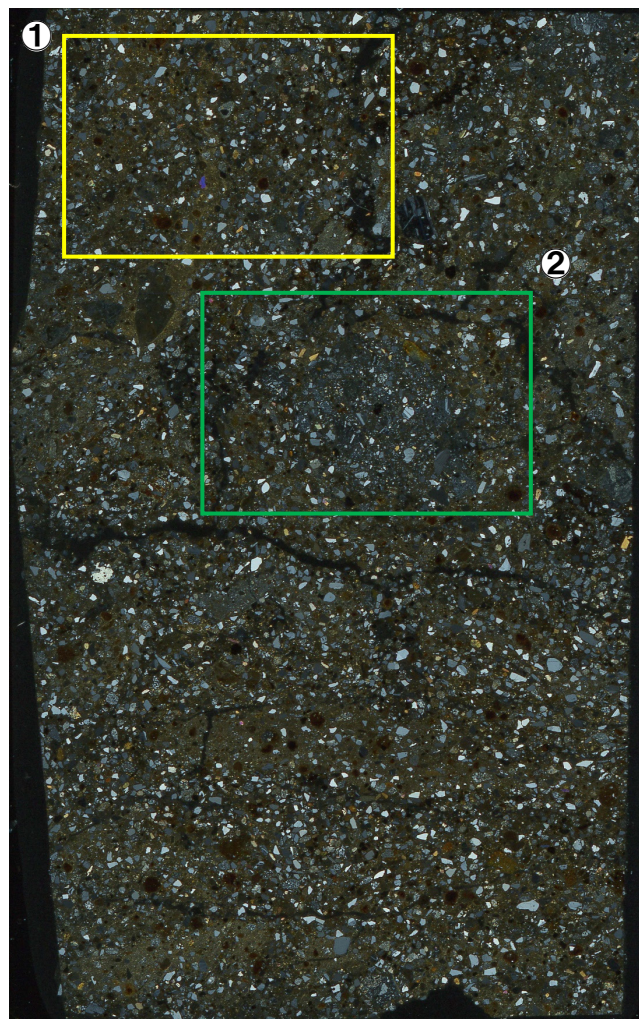


オープンニコル

2mm

## 2.2.2 地層区分の妥当性

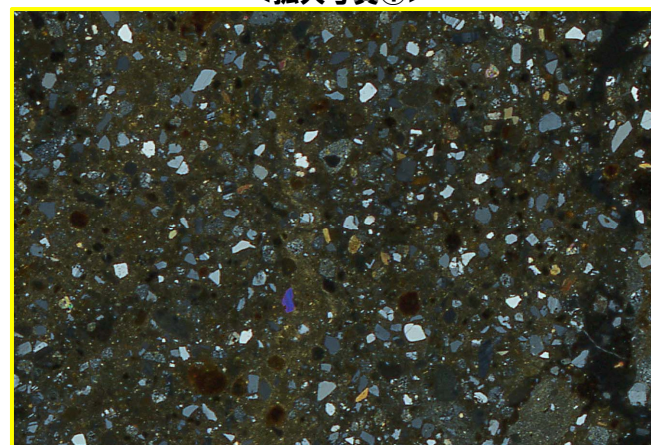
### ①薄片観察-SKB-TW-2(2/2)-



クロスニコル

10mm

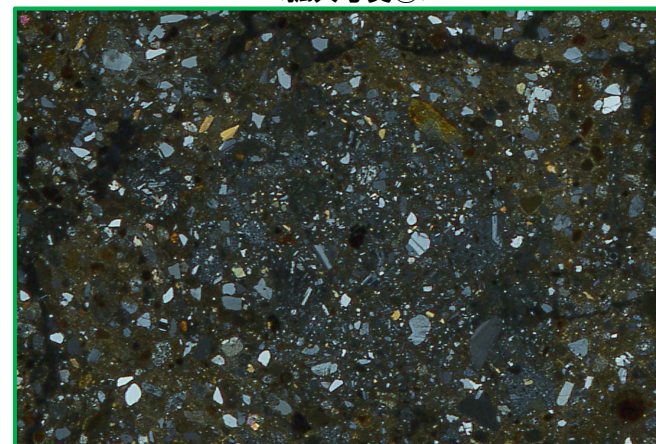
&lt;拡大写真①&gt;



クロスニコル

2mm

&lt;拡大写真②&gt;



クロスニコル

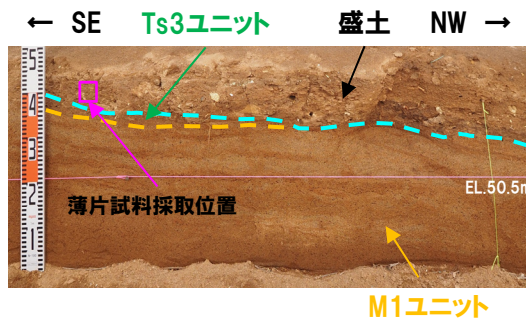
2mm

## 2.2.2 地層区分の妥当性

### ①薄片観察-SKB-TW-4(1/2)-

#### 【SKB-TW-4(盛土)】

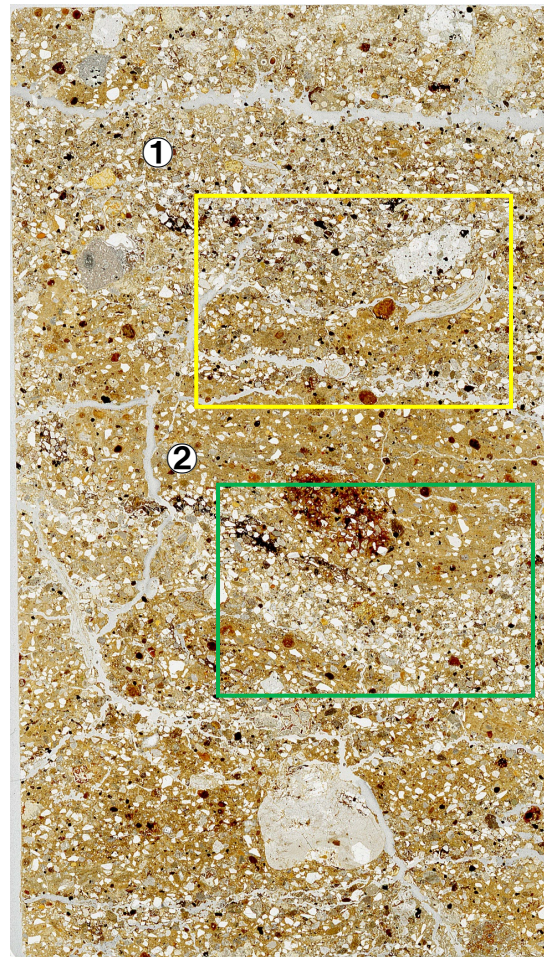
- 角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が混じる。粒子間に粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が多く認められ、局所的に卓越して多い箇所(拡大写真①)が認められる。また細～中礫サイズの安山岩の亜角～円礫が散在する。
- 水平方向に連続する空隙が数条認められ、薄片試料内を横断し、層相観察及びはぎとり試料観察において認められる特徴と調和的である。
- シート状に伸びた黒色の箇所が認められ、盛土敷均しの際に混入した腐植土が伸ばされたものと考えられる(拡大写真②)。



開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面  
薄片試料採取位置

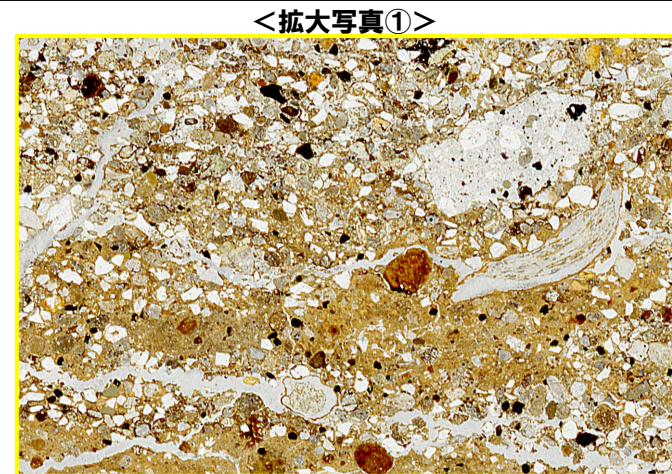


薄片試料写真(作成前)



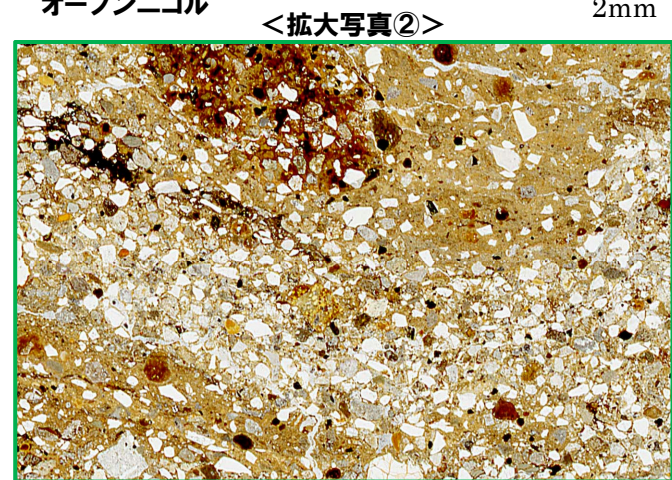
オープンニコル

10mm



オープンニコル

2mm

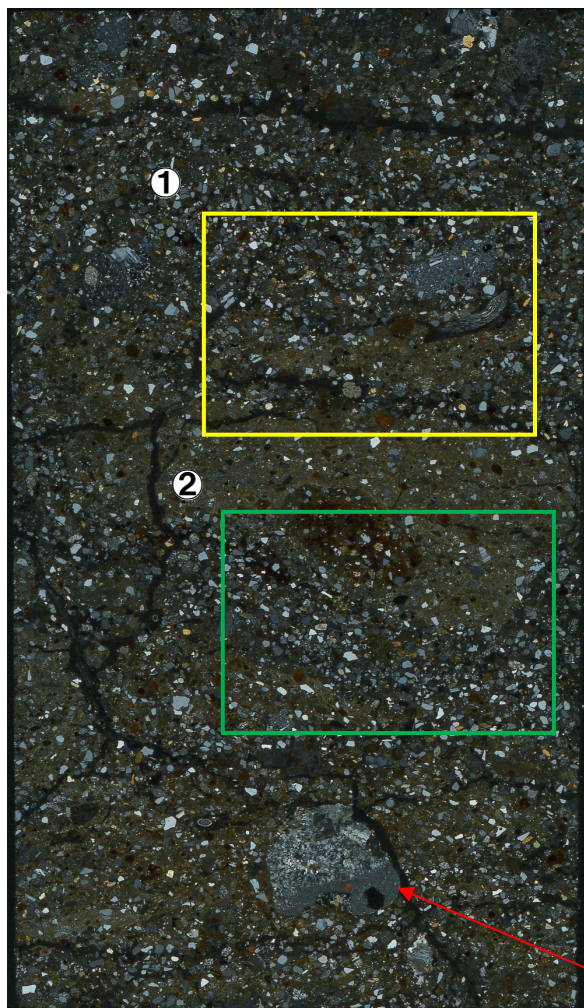


オープンニコル

2mm

# 2.2.2 地層区分の妥当性

## ①薄片観察-SKB-TW-4(2/2)-



クロスニコル

10mm

安山岩礫

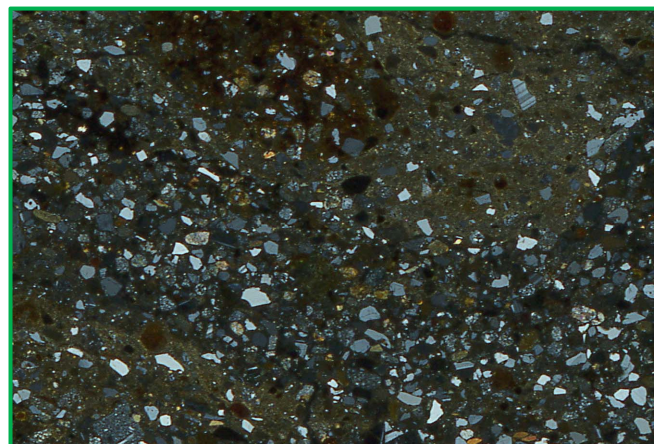
<拡大写真①>



クロスニコル

2mm

<拡大写真②>



クロスニコル

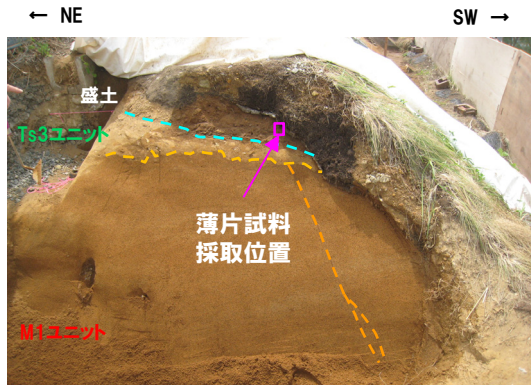
2mm

## 2.2.2 地層区分の妥当性

## ①薄片観察-SKB-S-3(1/2)-

## 【SKB-S-3(盛土)】

- 褐色～黄褐色を呈する粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が薄片試料全体に認められ、局所的に卓越して多い箇所(拡大写真①)が認められる。
- 角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が混じり、細礫サイズの流紋岩及びデイサイトの円礫が認められる。
- 植物片(拡大写真②)が認められる。



開削調査箇所(南側)南側壁面  
薄片試料採取位置

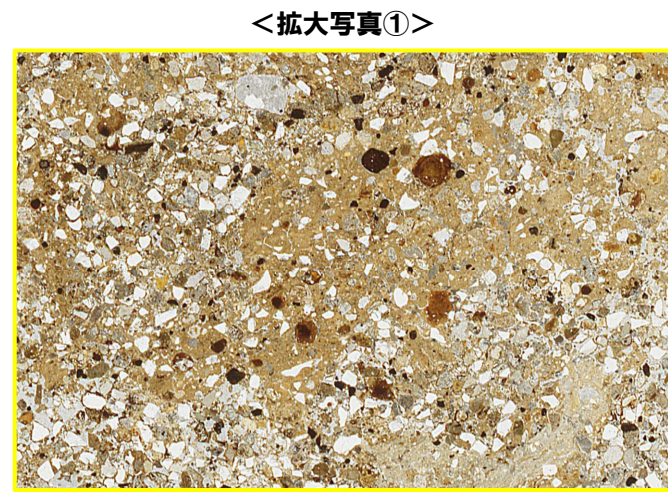


5cm  
薄片試料写真(作成前)



オープンニコル

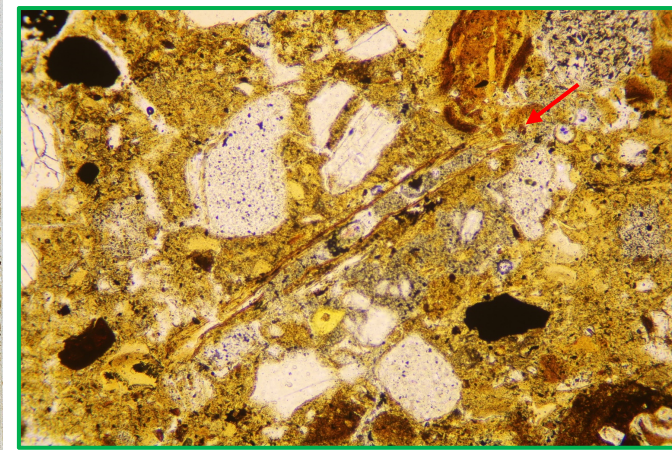
10mm



オープンニコル

&lt;拡大写真②&gt;

2mm

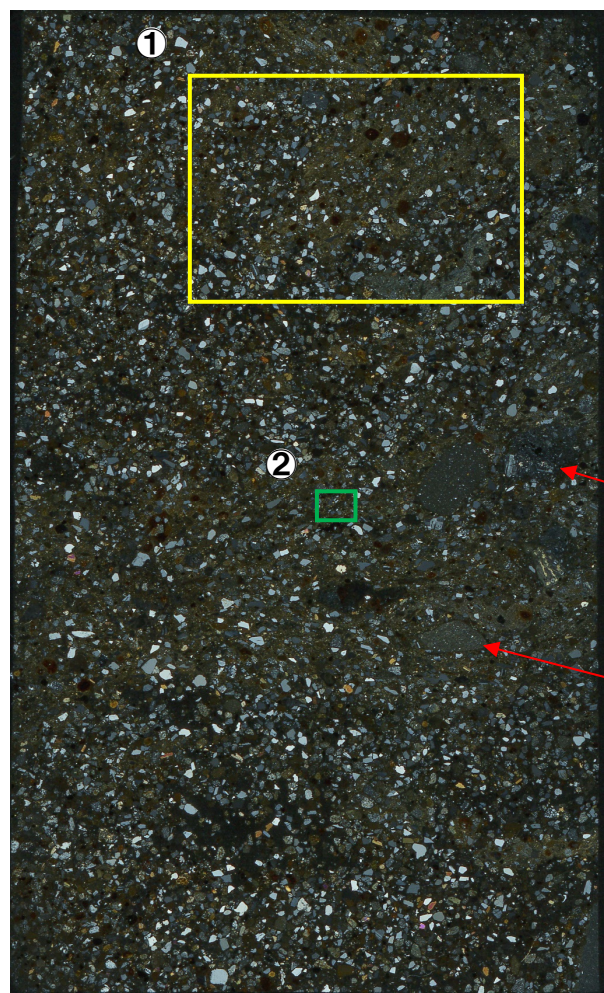


オープンニコル

0.5mm

## 2.2.2 地層区分の妥当性

### ①薄片観察-SKB-S-3(2/2)-



クロスニ科尔

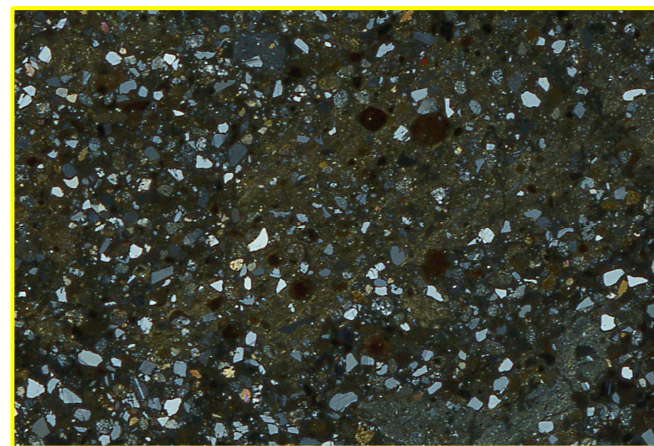
10mm

①  
②

デイサイト礫

流紋岩礫

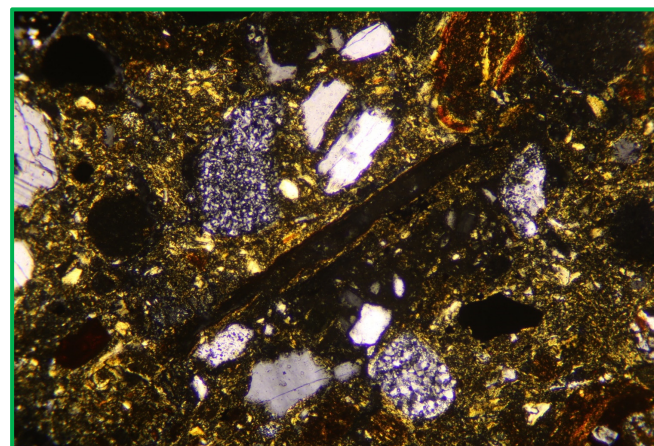
&lt;拡大写真①&gt;



クロスニ科尔

2mm

&lt;拡大写真②&gt;



クロスニ科尔

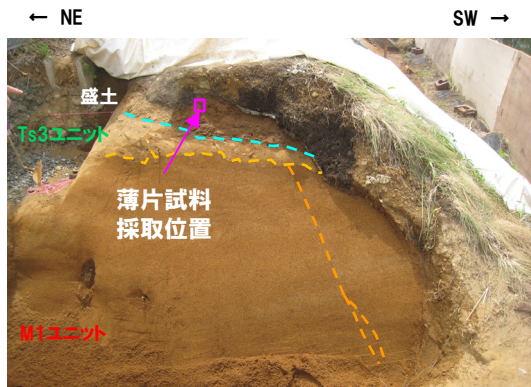
0.5mm

## 2.2.2 地層区分の妥当性

## ①薄片観察-SKB-S-4(1/2)-

## 【SKB-S-4(盛土)】

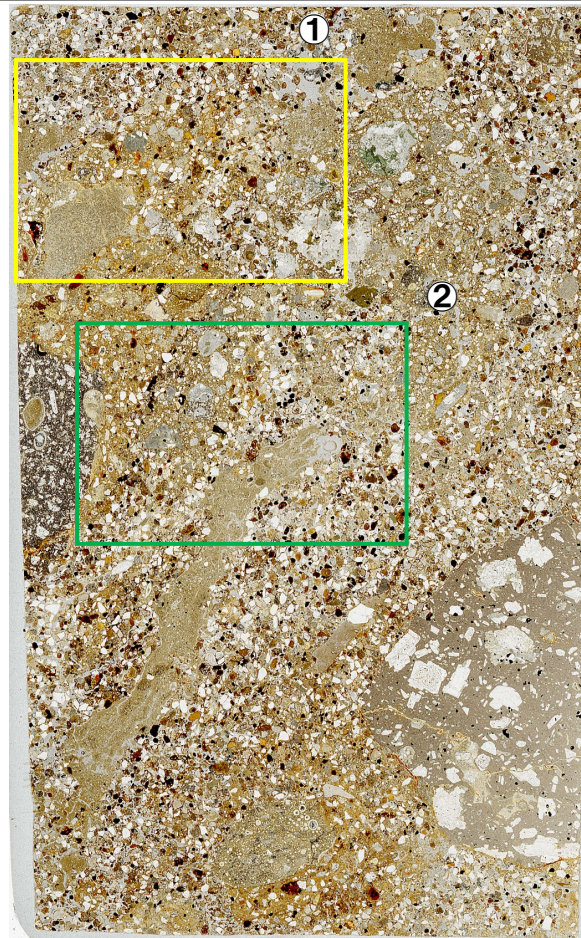
- 粒子間に褐灰色を呈する粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められない箇所と卓越して多い箇所(拡大写真①)が不規則に分布する。また、旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来と考えられる細礫サイズの亜円礫並びにデイサイト及び安山岩の亜角～円礫が認められ、粒子の形状及び粒径等が変化に富み、不均質な性状を示す。
- 粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物からなる薄層が認められ、高角度に延びるが、連続性が認められない(拡大写真②破線囲み範囲)ことから、盛土敷均しの際に伸ばされたものと考えられる。



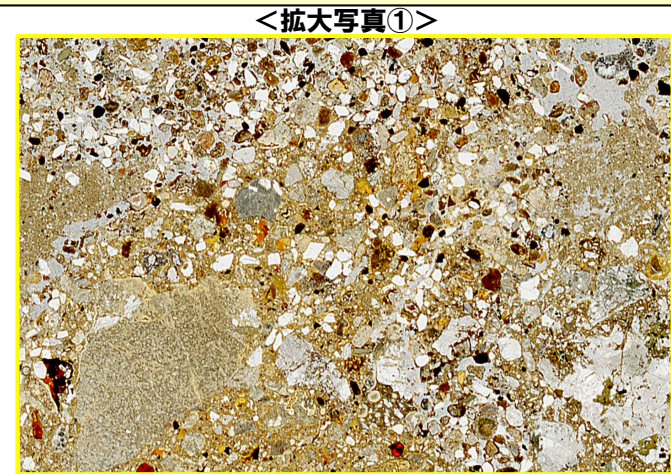
開削調査箇所(南側)南側壁面  
薄片試料採取位置



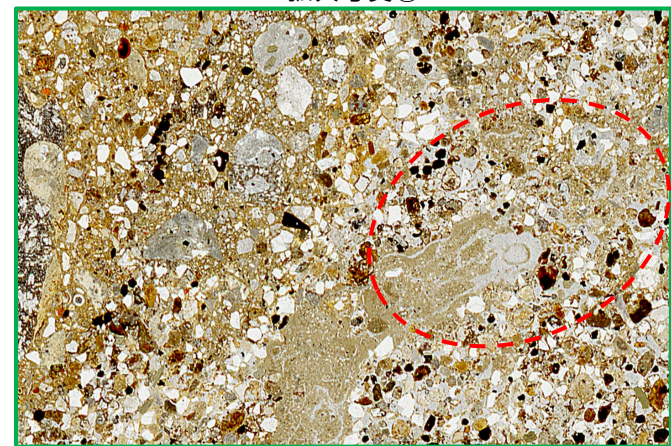
薄片試料写真(作成前)  
5cm



オープンニコル  
10mm



オープンニコル <拡大写真①>  
2mm



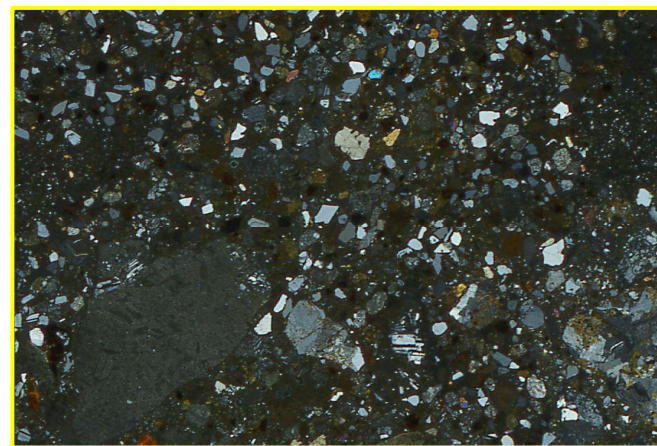
オープンニコル <拡大写真②>  
2mm



# 2.2.2 地層区分の妥当性

## ①薄片観察-SKB-S-4(2/2)-

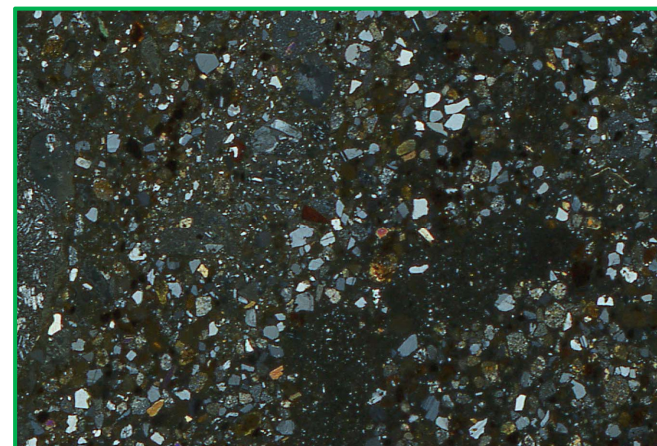
<拡大写真①>



クロスニコル

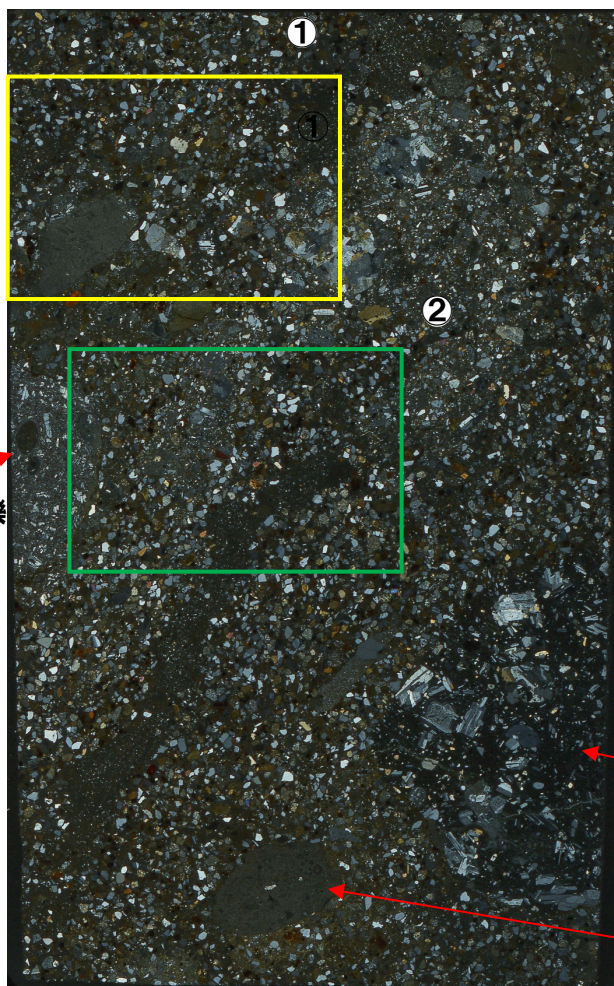
2mm

<拡大写真②>



クロスニコル

2mm



デイサイト礫

安山岩礫

火山礫  
凝灰岩礫

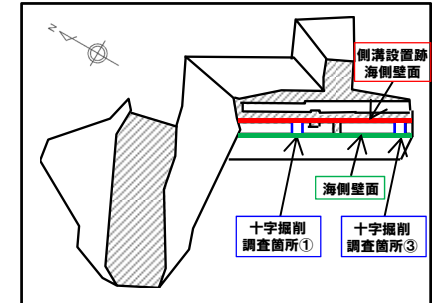
クロスニコル

10mm

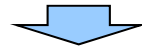
## 2.2.2 地層区分の妥当性

### ②硬度測定結果-まとめ(1/2)-

- 海成堆積物(M1ユニット), 斜面堆積物(Ts3ユニット)及び盛土の地層区分の妥当性確認のため, 南側壁面の背後法面において, R2.4.16審査会合以降に追加で硬度測定を実施した。
- 硬度測定は, 海成堆積物(M1ユニット), 斜面堆積物(Ts3ユニット)及び盛土を基本に測定を実施し, 測定において十分な層厚を有する遷移部が認められる箇所では, 遷移部についても測定を実施した。
- 測定は, 基質を対象とした。
- 硬度測定の結果, 各堆積物及び盛土において以下の特徴が認められる。
  - ・盛土及びM1ユニットは, Ts3ユニットに比べ, 値が小さい傾向が認められる。
  - ・盛土は, M1ユニット及びTs3ユニットに比べ, 値のバラつきが大きい傾向が認められる。
- なお, 盛土及びM1ユニットがTs3ユニットに比べ, 値が小さい傾向が認められることは, 南側壁面における既往の硬度測定結果と調和的である(P176参照)。



硬度測定実施箇所



- 各堆積物及び盛土において認められる異なる硬度の特徴は, 層相確認における特徴と調和的である。
  - ・M1ユニットがTs3ユニットに比べ, 値が小さい傾向が認められることは, 層相観察において認められる淘汰が良い砂層であるという特徴と調和するものと考えられる。
  - ・盛土がTs3ユニットに比べ, 値が小さい傾向が認められることは, 盛土が自然地盤ではなく, 人工構造物であることに起因するものと考えられ, 層相観察において認められる亀裂が発達するという特徴も影響する場合があると考えられる。
  - ・盛土がM1ユニット及びTs3ユニットに比べ, 値のバラつきが大きいことは, 層相観察において認められる層相変化が著しく, 不均質な層相を示すという特徴と調和するものと考えられる。